

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 1 3			学校名		県立大子特別支援学校										学校長名		大澤 宏規			
副校長名							教頭名		三橋 秀彰						事務長名		有馬 勝也				
教職員数	教 諭	2 3	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	3	非常勤 講 師	2	実 習 助 手		寄 宿 舎 指 導 員		事務職員	2	技 術 職 員 等	1 0	計	4 4			
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1 年 (3 歳 児)		2 年 (4 歳 児)		3 年 (5 歳 児)		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部		1	1	2	3	2	0	2	1	3	1	3	2	1 3	8	2 1 7				
	中学部		6	2	4	0	1	2							1 1	4	1 5 6				
	計															2 4	1 2	3 6 1 3			

2 目指す学校像

「持続可能で 選ばれる 地域共生型学校」 ・ 持続可能・・・安心で安全な教育環境を保持し、社会環境の変化に応じた教育を提供し続ける学校 ・ 選ばれる・・・地域資源を生かした特色ある教育課程をもち、質が高く魅力のある授業を提供する学校 ・ 地域共生・・・コミュニティスクール制度を生かし、地域づくりと学校づくりの一体的推進に取り組む学校
--

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・ 生命、健康、防災、生徒指導等、学校安全・危機管理に係る各種マニュアルは整備されているが、コロナ前の作成で改変されていないものが散見される。 ・ 全職員へのコンプライアンス研修を継続し、談話スペースの設置等職場環境の改善もすすめているが、ヒヤリハット事例の報告は少ない。 ・ コミュニティスクール制度の導入により、地域との連携体制が整いつつあるが、地域が望む解決課題に対する学校の貢献度が必ずしも高くない。	・ 個々の児童生徒の実態を各種マニュアルに重ね、緊急度で順位を決めて改変する。 ・ ヒヤリハット事例を躊躇なく全職員に即時共有し、データ蓄積により供覧化する。 ・ 細かな協働実績の積み上げを重視し、地域からの発展的な新規提案を引き出す。

学習指導	・教職員は、児童生徒の実態に応じ指導の個別化と学習の個性化に取り組んでいるが、教科等横断的に学びを深める指導計画策定と授業力が不十分である。 ・学びに資する専門性をもつ外部人材の情報や活用機会は増えつつあるが、担当教科の授業に関連付けた授業を展開しようとする意識が不十分である。 ・ICT 機器に係る知識・技能が高い教職員は多いが、ICT 機器による活動参加が難しい児童生徒の活動保証や、学び合いの創出を意識した授業実践が少ない。	・全教職員に教科等横断的という考え方と実践方法の理解を促すため、学校全体の学びの地図（単元配列表）を作成する。 ・自然体験活動を推進し、ICT 機器による全児童生徒の学習保証と、事前事後学習での有用性を活用をとおして実感させる。
------	---	---

4 中期的目標

1	「学びがい」の推進…地域資源や特性を生かした体験活動を柱に、教科等横断的な教育課程の創出と教職員の授業実践力の向上
2	「働きがい」の推進…学校運営協議会の機能を発揮し、地域と学校の共通課題に対する熟議と評価、改善に資する錬策の継続
3	「頼りがい」の推進…的確な危機管理体制による安心の担保と、学習指導・教育支援に係る高い専門性の確保・維持
4	「生きがい」の推進…子どもや保護者、サポーター等が健康で豊かな余暇の充実につながる取り組みの充実

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 「学びがい」の推進	① 指導の個別化と学習の個別化による個別最適な学びの実現 ② 教職員の専門性向上のための自学共有型研修の充実 ③ 教科等横断的視点による継続的な教育計画の工夫改善
2 「働きがい」の推進	① 積極的な地域貢献や奉仕活動等とおした心の教育の充実 ② 自立した生活者として必要な自己管理能力や規範意識の向上 ③ 社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成
3 「頼りがい」の推進	① 健康・安全に関する能力及び実践態度を育成する教育の充実 ② 学校の危機対応における体制づくりと環境整備の強化 ③ 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮
4 「生きがい」の推進	① 健康で豊かな生活をおくるための生涯スポーツの享受 ② 生活の質の向上と余暇の充実につながる文化芸術活動の充実 ③ 新しい発想で主体的な PTA 活動の推進による共育風土の醸成